

## こどもの病気「とびひ」

虫刺されやあせも、すり傷などに菌が感染し、水ぶくれができたものを、かきこわして広げていったものです。文字通り「飛び火」ですね。夏に、はやります。

- 原因：細菌（おもに黄色ブドウ球菌）が皮膚に感染をおこします。
- 症状：水疱ができる。かゆみが強いので、かいて水疱をやぶってしまい、菌が散って広がっていきます。
- 治療：抗生剤の内服や塗り薬、消毒薬が出ます。

（治療については、お医者さんの判断によりちがいます。ここには一般的なものを記載しています。）

- 病院に行く目安：水疱ができたとき、ひどくかゆがっているときは受診しましょう。熱が出たり、全体が腫れてきたときは、違う病気かもしれませんから受診しましょう。
- いつから学校（保育所）にいったいいい？：乾燥してくれば大丈夫です。もちろんプールも乾くまでダメですね。
- 予防：かゆみがあっても、かかない。（これにつきます。）
- おうちでできること：

お風呂・・・お風呂に入って、こすらずに、せっけんできれいに流してあげます。熱いと痒みがますのでぬるめのほうがよいでしょう。兄弟のいる場合は、うつりやすいので最後にしましょう。もちろんバスタオルも別にしてくださいね。

清潔・・・つめは短く切りましょう。手洗いをしましょう。

お子さんは、かゆみをなかなかかまできませんので、どんどん広げてしまいます。おかあさん、大変ですが、根気強く説得しましょう。

## 気になる症状「発熱」

ウイルスや細菌が体内に入ってくると、それを退治しようとして、抵抗力が働き炎症がおこります。そのために、熱が出るのです。つまり、発熱は、病気を治そうとして、体がたたかっている状態です。熱が高くなると、体力は消耗します。この状態が続くと、とてもつらいですし、病気とたたかう力も弱くなってきます。そこで、一時的に熱を下げ、たたかう力を回復させるために使うのが、熱さましです。熱さましは、病気の原因そのものをとるわけではないのです。

熱が高いと、脳に後遺症がでるかも・・・と、心配される方がおられますが、40度くらいでは大丈夫です。また、病気によって、熱が高くてもしんどくないこともありますし、38度でもぐったりしてしまうこともあります。もちろん、元気なときの平熱も、個人差があるように、熱に強い子とそうでない子がいます。

熱を出すことで、からだは病気をやっつけようとしています。むやみに熱をさげると、かえって病気が治るのに時間がかかってしまうこともあります。お子さんの状態をみて、熱さましはつかいましょう。

熱さましは、お子さんの場合、38.5度以上で、つらそうにしていたら使ってください。高熱でも、水分が取れていて、機嫌が悪くなければ、使う必要はありません。寝ているなら、起こしてまで使う必要はありません。一度使ったら、2回目は、6時間以上あけましょう。

おでこを冷やしても、あまり熱はさがりません。「熱さまシート」などは、いやがるのを無理にはる必要はありません。おとなでも、熱の上がり始めなど悪寒がするときは、暖かくしたいこともあります。状況に応じた快適な環境をととのえて、水分をしっかりとらせてあげましょう。